

前回（82 回、2015 年 7 月 11 日実施分）の Protokol

出席者（順不同）：佐野、岡部、千葉、杉山、岡田、萬納寺、山口、谷（北九州市よりゲスト）、桑原

1、前回の Protokol と哲学的問い（報告者：岡部氏）

2、第二部第一編第二章「思惟」第四段落から読む

※論点は、純粹経験の立脚地よりみた知覚と思惟と心像。

前段落では知覚と思惟との関係を考えて。次に……

【第四段落】

☆心像と思惟との関係を考える

「心像なくして思惟は存在しない」＝「思惟は心像を離れた独立の意識ではない」＝「心像は思惟の端緒である」→「思惟と心像とは別物ではない」

「いかなる心像であっても決して独立ではない、必ず（心像は）全意識と何らかの関係において現われる、而してこの方面が思惟の著しき者にすぎないのである」

Q. 思惟と全意識の関係は？

☞ここまでの論旨：純粹な思惟は存在しない。

☆再び、知覚と思惟との関係を確認すると……

知覚にも思惟的方面があり意志や動作となって現われる ⇔ 心像は単に内面的関係に止まる

☆よって知覚と心像（≡思惟）との関係は……

「厳密なる純粹経験の立脚地よりしては、どこまでも区別することはできない」

☞ここまでの論旨：知覚≡心像≡思惟 内外の区別なし。具象と抽象の区別なし。

思惟も純粹経験の一種である。

【第五段落】

☆思惟のもつ客観的意味、真妄 VS. 純粹経験

思惟は真理を現わすのが本領だが、思惟には真妄の別がある ⇔ 純粹経験に真妄はない

純粹経験の事実の外に実在なし

意識体系上の関係での客観や真妄であるにすぎない

「我々は最大最深なる体系を客観的実在と信じ、これに合った場合を真理、これと衝突した場合を偽と考える」（段落途中、時間切れ）……しかし！

※以降の論旨： 思惟 ≤ 純粹経験

「純粹経験と思惟とは元来同一事実の見方を異にした者、…純粹経験は直に思惟である」

3、哲学的問い（感想）：「思惟と経験とは同一」であり「個人あって経験あるのでなく、経験あって個人あるのである」の有名なくだりに向けての議論と思われるが、これほど執拗に「知覚」「心像」「思惟」の関係を論じてはむしろ解らなくなりそうである。ああ辟易…！

（筆記：桑原）